

科目名	国際情報論特講	担当者	(主担当者) カトウ コウジ 加藤 孝治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際情報分野（国際・政治・経済・経営）において諸領域の研究を行う際に必要なリテラシーを学び、以下の能力を身に着ける。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。</p> <p>II. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。</p> <p>III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。</p> <p>具体的な項目としては、①研究を行う上で欠かせない論文作成上の注意事項、②研究倫理、③文献検索の方法等の理解、及び④専攻の研究基盤となる知識・教養の涵養を含む。</p>															
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際情報分野で研究および論文を作成するうえで「常識」とされる知識を理解する。 <p>【行動目標（SB0s）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 修士論文を作成するまでに必要な3つのリテラシーを理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> 研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件の把握 自分の研究課題に関する先行研究を文献検索する方法 研究を進める上でやってはいけない研究倫理上の問題 自分の研究領域において必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。 															
学修方略（方法）	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> リポート推敲過程における受講者からの質疑は、manaba folio の全受講者用の掲示板機能（スレッド）を使って応答し、その過程を受講生全員への公開により問題意識を共有する。 <p>【学修方略（LS）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅学習では、指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、リポートを作成し manaba folio に提出する。提出されたリポートについて教員が検討すべき事項を指摘して修正版の提出を求める。これらを繰り返して合格水準に達するリポートを完成させる。この過程において、学生は疑問が生じた場合には、manaba-Folio を通して教員に質疑する。 4月下旬以降に3日間実施されるスクーリング（集中授業）に出席することが、単位取得の要件となる。また、リポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までに manaba folio に提出する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリングは15回の講義に出席し、事前課題の指示がある場合はそれに対応すること。 在宅学修では、リポート課題1につき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1)教材の学修；20時間、2)リポート執筆；10時間、3)リポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導を含む）；15時間。 															
スケジュール	<p>この講義は大学院の初年度教育に関する内容なので、日程調整し、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業（在宅学習） 2単位：基本教材1></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本教材1のリポート課題1 初稿〆切 2022年6月末日 → 最終稿〆切は学事暦に定める前期リポート提出期限 2) 基本教材1のリポート課題2 初稿〆切 2022年11月末日 → 最終稿〆切は学事暦に定める後期リポート提出期限 <p><スクーリング 2単位></p> <ul style="list-style-type: none"> 三専攻合同講義及び専攻別講義は4月下旬以降、対面にて実施する（ただし、状況に応じてVOD配信を検討する） <ol style="list-style-type: none"> 研究、及び論文作成に必要なリテラシー（三専攻合同講義） 国際情報専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員） <ol style="list-style-type: none"> スクーリング・リポート課題1：8月第1週（初稿） スクーリング・リポート課題2：8月末（初稿） 各科目担当者からショートリポートの提出を求められた場合は、適時対応すること 															
成績評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通信授業（在宅学習）</td> <td>50 %</td> <td>リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%</td> </tr> <tr> <td>スクーリング</td> <td>50 %</td> <td>リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%</td> </tr> </tbody> </table>							種別	割合	評価基準	通信授業（在宅学習）	50 %	リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%	スクーリング	50 %	リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%
種別	割合	評価基準														
通信授業（在宅学習）	50 %	リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%														
スクーリング	50 %	リポート（論点、結論、ロジック、引用及び参照の明示）：35% 観察記録（取組、期限の順守、指摘事項への対応、説明）：15%														
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 円滑な学習のため、履修届を提出したら担当教員（kato.kojii15@nihon-u.ac.jp）に必ずメールにて連絡すること。 学修およびリポート作成についての注意事項については、全て manaba Folio の「国際情報論特講」の掲示板で告知するので、必ず定期的にチェックすること。 リポートを作成する際には、課題図書からの要約と自らの意見を峻別すること。また、意見を作成する場合には、課題図書を含め他者の意見と自分の意見を峻別し、前者については引用部分と出典を明らかにし、後者についてはその根拠を論理的に説明すること。 															

【リポート課題】

基本教材 1		
教材の概要	著者名： 教材名：	船橋洋一 『検証 日本の「失われた 20 年』』(東洋経済新報社, 2015 年) ISBN: 978-4492396179 3,080 円+税
参考図書	(1)著者名： 教材名：	山家悠紀夫 『日本経済 30 年史 バブルからアベノミクスまで』(岩波新書, 2019 年) ISBN: 978-4004317999 900 円+税
	(2)著者名： 教材名：	博報堂生活総合研究所 『生活者の平成 30 年史 データで読む価値観の変化』(日本経済新聞社, 2019 年) ISBN: 978-4532176549 2,080 円+税
	(3)著者名： 教材名：	日本経済新聞社(編) 『令和につなぐ平成の 30 年』(日本経済新聞社, 2019 年) ISBN: 978-4492396179 2,800 円+税
履修上の ポイント	国際情報専攻で学ぶ領域は、国際問題・政治・経済・企業経営と幅広い分野に渡る。それぞれの分野の研究に必要な知識は独立しているのではなく相互に関係している。近現代の日本の歴史を振り返りつつ、研究に必要な論点を幅広く把握してほしい。本専攻における学修にあたり浅くとも広い知識を持つことは、自分の研究テーマに沿った深い研究を進めることに十分に役に立つものとなることを理解してほしい。	
リポート課題 1	自らが研究テーマとして取り上げる内容に 最も近い章 を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対して賛成するか反対するかを明確にして、自らの意見を述べてください(3000 字程度)。その際に、課題図書以外の参考文献（必ずしも参考図書を含む必要はない）を必ず記入すること。	
リポート課題 2	自らが研究テーマとして取り上げる内容とは 異なるテーマを取り上げている章 を一つ選び、その内容を要約し、筆者の意見に対する自らの意見を述べてください(3000 字程度)。その際に、課題図書以外の参考文献（必ずしも参考図書を含む必要はない）を必ず記入すること。	

基本教材 2 (スクーリング) オムニバス方式		
教材の概要	著者名： 教材名：	スクーリングあるいは個別ゼミにおいて、特別研究担当教員より提示された推薦図書
参考図書	自らの研究を進めていくために、必要と思われる資料を選択し、参考にしつつ研究計画書を作成してください。なお、参考文献として選択した図書・論文は、研究計画書上に記載すること。	
履修上の ポイント	前半の「大学院における研究及び論文作成に必要な基礎的事項」においては、①研究及び論文の最低条件を理解する、②研究倫理を含む研究を進めるための基本的なスキルを身につける、③研究及び論文作成のモチベーションを高める、という 3 つの目的を達成し修士論文を作成するために必要な研究リテラシーを涵養する。 後半の「各専攻分野における様々な問題」において、国際情報専攻分野の研究基盤となる知識・教養の涵養に努める。	
リポート課題 1	スクーリングの概要を要約し、それについての意見をまとめてください。その際に、前半の共通講義と後半の専攻の科目別講義に分けて意見をまとめてください (1,000 字から 1,500 字)。	
リポート課題 2	各分野の研究方法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、入学前に検討していた研究計画を見直し、再作成した 研究計画書 (3,000 字から 4,000 字) を提出すること。なお、その際に、必ず指導教員のレビューを受けてください。	

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」「研究の取り組み方」について全体的な理解をする 教材に基づく学修（第 1 章から第 3 章につき通読する）
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し、大学院の学び方を理解する 教材に基づく学修（第 4 章から第 6 章につき通読する）
第 3 回	教材に基づく学修（第 7 章から第 9 章につき通読する）
第 4 回	教材に基づく学修（第 10 章から第 12 章につき通読する）
第 5 回	教材に基づく学修（第 13 章から第 15 章を通読する）
第 6 回	「学修の進捗状況・課題の取組方針」について、担当教員と認識を共有する (自らの取り組むテーマ 2 つを確定し、リポート作成方針のすり合わせを行う)
第 7 回	教材に基づく学修（テーマ選択①の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 8 回	教材に基づく学修（選択したテーマ①に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第 9 回	リポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 10 回	リポート課題 1 に係る教員からの指摘事項（論文執筆のルールを含む）を受け、それに基づき内容を再検討する
第 11 回	リポート課題 1 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する
第 12 回	教材に基づく学修（テーマ選択②の対象章につき精読し、初期原稿を作成する）
第 13 回	教材に基づく学修（選択したテーマ②に係る参考文献を探索し、提出原稿—初稿—を作成する）
第 14 回	リポート課題 2 に係る初稿を提出し教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 15 回	リポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2 スクーリング（90 分）

第 1 回	三専攻合同講義 専攻主任が分担して担当	研究、及び論文作成に求められるもの (加藤孝治)
第 2 回		主な研究スタイルと論文の構成—研究目的の決め方と論証・検証の方法 (加藤孝治)
第 3 回		研究倫理 1 (田中堅一郎)
第 4 回		研究倫理 2 (田中堅一郎)
第 5 回		先行研究のレビューとその利用方法 (島田めぐみ)
第 6 回		研究及び論文についての概論 (加藤孝治)
第 7 回		研究及び論文の進め方 (加藤孝治)
第 8 回	国際情報専攻 講義の順番は変更される可能性がある	国際・政治分野 1 (安藤貴世) 国際法
第 9 回		国際・政治分野 2 (川中敬一) 危機管理論
第 10 回		国際・政治分野 3 (瀧川修吾) 日本政治史
第 11 回		経営・経済分野 1 (階戸照雄) ファミリーガバナンス論
第 12 回		経営・経済分野 2 (丸森一寛) アカウンティング論
第 13 回		経営・経済分野 3 (前野高章・陸亦群) 國際経済政策論
第 14 回		経営・経済分野 4 (雨宮卓史) マーケティング論
第 15 回		経営・経済分野 5 (加藤孝治) 人材マネジメント論

※原則として対面方式で実施する（変更の場合は改めて連絡する）。